

武器よさらば

映画文学人生論

Ernest Hemingway Farewell to Arms (1932)

金原瑞人訳『武器よさらば』(2007)「新潮文庫」

映画：『戦場よさらば』(1932)

監督：フランク・ボーゼイジ、

出演：ヘンリー デイリー・クーパー

キャサリン ヘレン・ヘイズ

日本人というのは小柄で感じのいい民族で、踊りと軽いワインが好きなんだ

一九一四年七月、第一次世界大戦が勃発した。セルビアのサラエボでオーストリア・ハンガリーの皇太子が暗殺され、オーストリア・ハンガリーがセルビアに宣戦布告した。が、それだけなら二国間戦争であり、世界大戦にはならない。

ドイツがオーストリアに味方し、ロシアがセルビア側について動きだすと、ドイツはロシアに宣戦布告し、やがてフランス、ベルギーと交戦状態に入る。さらにイギリスがドイツに宣戦布告し、イタリア、日本、アメリカもまきこまれた。

『武器よさらば』の主人公フレデリック・ヘンリーはアメリカ人だが、志願してイタリア軍に入り、傷兵運搬車数台を指揮する任務につく。イタリア軍のなかでは「中尉」扱いになっている。

アメリカがドイツには宣戦布告したが、オーストリアに対しては布告していない時期、この「中尉」は、ウイルソン大統領がオーストリアに宣戦布告するだろうかとたずねられ、時間の問題だろうと答えた。アメリカがオーストリアになんかのうらみがあるのかはわからなかったが、ドイツに布告した以上は、オーストリアにもするのが当然と思ったのだ。

しかし、本人自身がオーストリアになんかのうらみがあるのかわからないのに、なぜイタリア軍に加わって、オーストリアと戦うのだろうか。



武器よさらば

映画文学人生論

彼はまた、トルコにも布告するだろうかとたずねられると、アメリカはトルコに宣戦布告するといった。ブルガリアには？ ブランデーを何杯も飲み、酔っ払っていた彼は、神にかけて、宣戦布告すると答え、日本にも布告するといった。日本はイギリスの同盟国だと相手が指摘すると、イギリスなんか信用するな、日本はハワイをほしがっているんだと、いった。

ハワイはどこにあるんだ？ 太平洋だ。日本はなんでそんなところをほしがっているんだ？ 実際にはほしがっていないんだと、彼はいった。根も葉もない嘘だ。日本人というのは、小柄で感じのいい民族で、踊りと軽いワインが好きなんだ。ヘンリーは、口から出まかせにいいかげんなことを言っている。これで中尉がつとまるのだから気楽なものだ。負傷して入院すると、美しい看護婦のキャサリンと恋におちて、競馬や釣りやビリヤードを楽しむ。

そんなロマンチックな経験をして娯楽も楽しめるなら戦争も悪くないという気もするが、現実はやはり甘くない。戦争に嫌気がさしたヘンリーは脱走し、キャサリンと中立国のスイスに逃げる。しかし、ハッピーエンドとはいかなかった。妊娠して入院したキャサリンは出産に失敗し、死んでしまう。赤ん坊も死ぬ。

雨が降っていた